ほのか通信
２０１４年冬号

男鹿葬祭ホール ほのか 通信

ほのか通信第５号
発行責任者　富田猛
電話：0185 - 25 - 3666
ｆａｘ：0185-25-2172

戒名について
知っているようで知らない戒名の意味

戒名とは、仏教教団に入り戒律を守ることを誓った者にのみ与えられた名前のことです。本来は、戒を授けられ出家した僧にのみ与えられるものでしたが、出家しない在家の檀信徒も授戒会（じゅかいえ）に加わって戒を授けることにより、仏法に帰依した者として戒名を与えられるようになりました。

元々インド仏教には戒名はなく、仏教が中国に伝わった以降に生まれたものといわれます。
本来戒名は生前に入信して与えられるべきものですが、死者の場合でも生きている者として扱い、出来るだけ早く授戒させようと、しばしば通夜に授戒が行われます。

これは、没後作僧（もつごさそう）と言い、亡くなった人を仏の弟子にして浄土に送るということを表します。授戒は引導と葬儀儀礼の中心をなすものとして位置づけられています。

没後作僧については、「生前、入信に際して授かるのが本来であるが、その縁がなかった者も死後といえども切り捨てるのではないという仏の大慈悲が存在する」と説明もあります。

戒名（法号）の構成

戒名は本来２字で、中世までは貴人といえども２字であったと言われます。今では本来の戒名である法号の上に道号（または宗派戒名）、さらにその上に院号がつけられ、法号の下に位号がつくという構成になっています。

〇〇院	△△	□□	居士（大姉）
院号	道号	法号	位号

「院号」最上級の尊称と言われるものに、院号（〇〇院）、院殿号（〇〇院殿）があります。かつては一寺を建立するほど貢献した人に与えられる尊称で、皇室や摂関家に対して〇〇院が、またこれと区別するため武家に〇〇院殿が与えられました。特に本家の主人のみにつけたとされます。院号より院殿号を上位とする慣習は、大名家に院殿をつけるようになった江戸期に生まれたとされます。

「道号」道号は元々、仏道に励み、これを究めた者への出世の称号で、住職などに与えられたものと言われます。ここの位置に宗派名が入ることがあります。

「法号」本来の戒名（法名・法号）です。

「位号」位階や性別を表すものです。成人（１５歳以上）の場合、一般に信心の厚い者を信士・信女により清浄な者を清信士・静信女に、仏門に入り剃髪染衣（ていはつぜんえ）した者を禅定門（ぜんじょうもん）禅定尼（ぜんじょうに）に、四徳を供えた篤信の信者を居士・大姉に、より上位を大居士・清大姉に、とします。

葬儀概論より抜粋

編集後記

２０１３年もあっという間に過ぎ、昨年は当社のホール葬も増え、今の時代の葬送環境が変わったことを改めて感じました。一昔前は葬儀は自宅かお寺で執り行うのがあたりまえでしたが、葬祭ホールが増えるに連れ、自宅・寺院葬からホール葬へと葬送儀礼の環境が変化しています。お客様の選択によりホールでのご葬儀が増え、私達もお客様のご要望に真摯にお応えしたいと思っております。

～授戒会とは～

授戒会は、通常１週間お寺に籠もり、座禅し、洒水灌頂（しゃすいかんじょう）を受け、法話を聞き、自らの悪業を懺悔し捨身供養し、戒法を受け、仏弟子としての血脈を授けられることで終わります。